

PTA活動紹介		高P連受付番号	1
PTA(学校)名	愛知県立ひいらぎ特別支援学校	部門	特別支援
活動テーマ	保護者同士の結びつき ～本校「しゃべり場」の取組～		
キーワード	PTA相談支援事業	ペアレントトーク	地域との連携
開催日	平成28年9月27日		
場所	名古屋市重症心身障害児者施設「ティンクル名古屋」(医療型障害児入所施設)		
時間	施設見学後12時から13時30分まで		
参加者	施設見学参加者22名中18名が「しゃべり場」に参加。(両親で参加も2組) 本校職員1名		
趣旨	本校では、平成18年度から、保護者が日々の生活に役立つことがらや抱えている共通の課題をテーマにして、「しゃべり場」という取組を続けています。気軽に情報交換することで、保護者同士の結びつきを強め、助け合えることを目指しています。 今回は、PTA進路指導委員会主催による施設見学会後にその場をお借りして、昼食をとりながら「卒業後の生活 ～施設の立ち上げについて～」を話題の中心として話し合うことで、肢体不自由がある児童生徒の卒業後の進路の話、中でも主に施設の立ち上げについて話し合いました。		
活動ポイント	日頃から関心の高い、児童生徒の卒業後の生活や施設立ち上げ等のための行政との連携等を話し合うことで保護者が今からできる取組についての認識を深めました。		
主体委員会名・講師名等	ひいらぎ特別支援学校PTA進路委員会 講師:指定管理者社会福祉法人むつみ会副理事長 松田昌久様、同理事 高嶋みえ様(現名古屋特別支援学校PTA会長)		
今までに実施してきた「しゃべり場」の取組例紹介	保護者控室での保護者同士の座談から発展 平成18年度 おしゃべりの場 平成22年度 月1回程度、「しゃべり場オープン」保護者同士の話し合いの場、「しゃべり場スーパー」講師を招いての勉強会を兼ねた話し合いの場を設定。 ・本校卒業生保護者を招いて(我が子の理解者を増やす) ・「ちょっと聞いてもいいですか」相談支援員を囲んで(市町の福祉制度について) (福祉サービス利用等についての保護者アンケートの実施) ・「ちょっと聞いていいですか?あんなこと、こんなこと」 (本校通学区の福祉課、相談支援センターの方との懇談) 平成23年度 相談支援機能を持たせ、地域別懇談会へと展開 ・「障がいのある人の卒業後の生活ぶりについて」 (各地区福祉課担当者、障がい者相談支援センター相談員参加) ・「親子・家族の関係について」(思春期の困りごと、同性、異性のかかわり、お風呂の悩み) 平成24年度 研修委員会、進路委員会主催の見学先等での開催 ・「先輩のお母さんを迎えて」(卒業後の様子、友達関係、仕事のこと、性の問題、親子のコミュニケーション、子供の自立) ・「私たちの使える防災」(講師:障害者相談支援センター)災害時に必要な物、避難所生活 ・「障害児の兄弟・姉妹へのケア」「思春期への対応・ケア」「メンタルヘルスケア」(講師:大学教授) 平成25年度 ・「障害のある人の卒業後の生活ぶりについて」(各市町福祉担当者、相談支援員)本校校内見学も ・「思春期の男の子、女の子、反抗期や体調の変化」 ・「レジャー・旅行について」(講師:旅行会社旅サポーター(介護のできる添乗員)) (同行介護、旅先でのヘルパー手配、バリアフリーに配慮した旅行の企画) ・「住宅(新築・リフォームについて)」(講師:住宅業者) ・「働いているお母さんの話」 平成26年度 ・「排せつについて」おむつやそのサイズ、パットについて、排せつ方法やトイレで工夫していることなど ・地元NPO法人職員との懇談「親の気持ち、子の気持ち」 平成27年度 ・「福祉車両見学会」本校保護者が日常使用する福祉車両を見せ合うことで、使い勝手の良し悪し等の情報交換を行った。 平成28年度 ・9月27日(火)「卒業後の生活 ～施設の立ち上げについて～」 ・12月6日(火)PTA進路施設見学会(東海市あじさい)後に予定。		
メール送信先	info@aichikoupren.org		

<ティンクル名古屋 施設見学の様子>

新しくきれいな施設であるだけでなく、設備が充実していること、保護者の宿泊室が2部屋あることなどに注目しました。
満床ではない状態。問い合わせや利用検討中の学齢児、医療的ケアのある卒業生が何件かある模様。どのようなケースなのかを伺いました。



昼食の様子を見学



入浴施設見学

<今回の「しゃべり場」の取組 >

「卒業後の生活 ～施設の立ち上げについて～」

PTA進路研修会主催の施設見学後に見学先のティンクル名古屋の研修室をお借りして昼食兼懇親会を開催しました。「しゃべり場」は、保護者が気軽に集い、心置きなく話し合う場で、今回も仕出し弁当を食べながらの話し合いの場でした。
講師には、指定管理者社会福祉法人むつみ会理事長松田昌久様 同理事 高嶋みえ様(現名古屋特別支援学校PTA会長)をお迎えしました。



話し合いの様子

- むつみ会と「ティンクルなごや」の設立までの経緯について
 - ・保護者同士の連帯の必要性
 - ・行政への粘り強い働きかけの必要性
- 講師の方は、愛知県重症心身障害児(者)を守る会会長なので、名古屋だけでなく、どの地域でも「守る会」としてバックアップする。
- 肢体不自由者が成人してからの生活で起こりうる二次障害について
- 在学中に保護者ができること

医療的ケアを必要とする児童生徒の保護者をはじめ、それぞれの居住地での生涯にわたる生活の場の確保、施設づくりについての意識が高まりました。

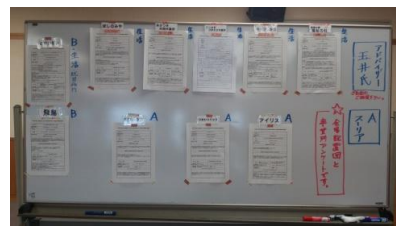
PTA活動紹介		高P連受付番号	2
PTA(学校)名	愛知県立いなざわ特別支援学校PTA	部門	特別支援
活動テーマ	地区別事業所相談会		
キーワード	福祉就労！！	輝ける未来へ！！	子供たちの幸せを考えて！！
開催日	平成28年9月21日(水)、23日(金)、30日(金)		
場所	清須市総合福祉センター(21)、稲沢市勤労者福祉会館(23)、一宮地場産業ファッションデザインセンター(30)		
時間	午前9時30分から正午まで(3日間共通)		
参加者	21日:10事業所、保護者26名(学区:北名古屋市、清須市、豊山町) 23日:11事業所、保護者24名(学区:稲沢市) 30日:21事業所、保護者28名(学区:一宮市)		
趣旨	本校は、学校新設から3年目となります。 高等部から入学してきている保護者は自力で通学している子供が多いため、スクールバス停での保護者同士の横のつながりが薄くなってしまったり、児童デイサービス等の事業所を利用していなかったりなどで、どうしても就労の情報があまり入ってこないという話を以前から耳にしていました。そういった保護者の不安や疑問、「自分たちが住んでいる地域に、A型・B型・就労移行支援・生活介護の就労系事業所がどのくらいあるの?」「そもそもA型B型って何?」ということから、各事業所に集まっただき、『企業説明会』のような形でやってみようと、初年度から始めました。		
活動ポイント	保護者が、自分たちの住んでいる地域の事業所について幅広く情報を得ることで、子供たちの将来の進路を考える上での参考になるようにする。		
主体委員会名・講師名等	PTA執行部		

☆ 9月30日(金)一宮地場産業ファッションデザインセンター



【相談会当日の会場の様子】

☆ 9月21日(水)清須市総合福祉センター



☆ 9月23日(金)稲沢市勤労福祉会館

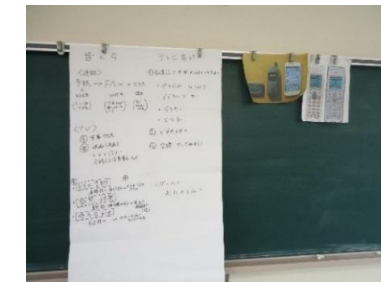


メール送信先 info@aichikoupren.org

PTA活動紹介		高P連受付番号	3
PTA(学校)名	愛知県立千種聾学校	部門	特別支援
活動テーマ	手話を学んで(手話学習会&茶話会)		
キーワード	楽しく学ぶ	手話の良さ	聾者の生活を知る
開催日	H28年度は7月6日(水)、9月21日(水)、2月10日(金) 例年、年に3回実施している		
場所	千種聾学校会議室、保護者控え室		
時間	10:00~11:00		
参加者	幼稚部保護者、小学部保護者(毎回、保護者の半数近くが参加している)		
趣旨	聾学校では、授業はもとより生活のあらゆる場面で手話を使用している。それは、家庭においても同様である。しかし、手話を使えない保護者が以外に多く、親子でコミュニケーションが十分にとれないこともある。また、保護者が手話を学ぶ機会があまりないという現状があった。そこで、聴覚に障害のある保護者に聾者の先輩としての話を聞いたり、手話を楽しく学んだりする機会を設けるために、PTA主催で「手話学習会」や「茶話会」を行っている。身近な話題や子どもの話題を中心に手話でやりとりする中で、比較的 naturally 手話が身に付くように工夫している。		
活動ポイント	個々の手話のレベルや子どもの年齢に関係なく、みんなで楽しめることに重点をおいている。アットホームな雰囲気の中、何気ない会話に手話をつけることで自然に手話を覚えられている。		
主体委員会名・講師名等	企画、運営:研修委員会、講師:聴覚に障害のある保護者		
<p>〔手話学習会の始まり〕 聴覚に障害のある子どもたちとコミュニケーションがとれるようになることで、子どもたちの気持ちに寄り添うことができるようになる。だから、子どもたちと話ができるように、手話を学びたい。それによって、聴覚に障害のある子どもの周りにはいる人たちも幸せや喜びを感じてほしいという願いから手話学習会が始まった。そして、聾児に関するさまざまな情報を保護者同士で共有したり、聾者として、先輩保護者として下級生の保護者の相談に乗ったりアドバイスをしたりする機会として、茶話会が始まり、現在9年目となっている。</p> <p>〔手話学習会&茶話会について〕 幼稚部3歳から小学部6年生までの保護者がおり、手話のレベルはさまざまである。勉強という雰囲気だと堅苦しくなるため、楽しく手話が学べるように、その年の研修委員がアイデアを出し合い内容を決めてきた。</p> <p><今年度の活動内容></p> <p>○第1回 手話学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話はどのくらい必要か? ・手話は聾者にとって言語である (日本手話と日本語対应手話の違い) ・聾者と聴者の違い ・ASL(アメリカの手話)とJSL(日本の手話) ・楽しい手話(あいうえお) 			
メール送信先		info@aichikoupre.org	

○第2回 手話学習会(茶話会を兼ねて)

- ・昔と今の聾者の生活の変化
 - ① 連絡方法:以前は手紙やFAX→今はスマホ
(メールだけではなく、テレビ電話で直接会話もできるようになった)
 - ② 以前はテレビの映像だけで内容を想像していた→今はテレビに字幕がついた
 - ③ 以前はホテルなどの予約が電話だったため、自分ではできなかった
→今はインターネットでできるようになった
- ・伝言ゲーム
参加者全員で5チームに分かれ、声なしの手話で伝言ゲームを行った。




〔参加した保護者からの感想〕

- ・楽しく学べて良かった。
- ・身近な内容で良かった。
- ・聾者の生活など、いろいろ聞けて良かった。
- ・ゲームなど楽しく学べる方法で良かった。次回も参加したい。
- ・聾者の会話を読み取る勉強をやってみたい。

〔今後の活動に向けて〕

今年度4月より全国で障害者差別解消法が施行され、愛知県では10月より手話言語の普及及び障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例が施行された。そこで、本校PTAでも、アンケートの結果を次回の手話学習会に生かしながら、聾者にとって手話も日本語と同じように大切で必要なものであることを伝えていきたい。そして、聾者に関わるさまざまな情報を共有し理解することで、子どもたちの可能性を伸ばし、親子の関係を支援し、楽しい活動を通して成長していけるような会にしていきたいと思う。



PTA活動紹介		高P連受付番号	4	PTA研修会アンケート結果
PTA(学校)名	愛知県立半田特別支援学校桃花校舎PTA	部門	特別支援	<p>* 研修会についての意見・感想</p> <p>◎ とても分かりやすく、大変勉強になりました。親の関わりで本人の成長を妨げていたのかもしれないと、反省することもできました。親ももっと大らかに本人の成長を見守りたいと思います。</p> <p>◎ 体は母より大きくなりましたが、少し幼いので、家庭で特に性のことで問題に思うようなこともなく過ごしています。まだ、興味が無いのか、上手に隠しているのかわかりませんが、相談しやすい身近な大人でありたいと思いました。</p> <p>◎ なかなか性の問題は、私の方が聞きずらく、お互い触れずにきていたので、勉強になりました。</p> <p>◎ 息子はまだ性に目覚めてない様に思いますが、大変勉強になり、接し方等注意していきたいと思いました。</p> <p>◎ 子供の成長に、ダメ、否定はしてはいけなく勉強させていただきました。実行するのはなかなか大変な事だと思いますが、親も成長していきたいと思います。</p> <p>◎ 色々勉強になりました。子供と向き合っていきます。</p> <p>◎ 親として日頃から子供を観察し、気づき、まずは、子供を知ることが大切なことが分かりました。そんな中、子どもから相談してくれるような存在でいたいと思いました。</p> <p>◎ 木全先生のお話は、とても参考になりました。子供は女なので、もう少し詳しくお話が聞けたら良かったです。(マスターベーションやセックス等)</p> <p>自分は子供との関係は、うそや秘密のない、何でも話し共有することが大切だと思っていましたが、それは、子供の自立の妨げになることもある・・・ということを知り、びっくりしました。</p> <p>今後は程よい距離間を持ち、見守っていきたいと思いました。</p> <p>◎ 失敗しないように親が先に手を出してました。経験も(学び)も大切です。失敗も成長するために必要なもので、見守るようにしたいです。頭ごなしでなく、本人の気持ちをしっかり受け止めて接したいと思いました。具体的で大変わかりやすかったです。</p> <p>◎ とても聞きやすく、内容が深いのに面白く引き込まれる話でした。</p> <p>家に帰ったら、アンとサリーの話をしてみようと思います。</p> <p>見て見ぬふりは、大切で、そのせいで本人が困ることになって、SOSを出したら、その時に力を貸そうと思っても、学校や世の中では通用しないことも多く感じます。また、本人も1つの秘密を守るために、どこでSOSを出したら良いかわからず、大ごとになってしまうこともあるので、どのタイミングでスポットを当てようか、親として悩む時もあります。親ではない支援者が必要だとよく感じますが、なかなかそういった支援者が見つけれない気がします。学びの場の獲得も難しく感じます。</p> <p>◎ 子どもがトラブル(例:スマホのサイトでの多額な請求や、彼女との交際など)を起こした時、否定的な言葉(ダメや禁止の言葉)を言ってしまいがちですが、本人の気持ちを考えて声掛けをする。頭ごなしに注意するのは控えようと思いました。</p> <p>何かあったら話をしてくれる、相談してくれる関係を築いていきたいです。</p> <p>◎ 今のところ、性について困った事はあまりなかったのですが、何も無いことが逆に不安に思います。社会人になってから、いろいろ問題が起きそうなので、今日の講演会の内容を参考にしたいと思います。デート学習、とてもいいと思います。ぜひ参加させてみたいと思いました。</p> <p>◎ 障害の有無に関わらず、否定をするのではなく、話をよく聞いて「見守る」ことも大切だと分かりました。</p> <p>◎ 子どもたちにもお願いしたいと思いました。他の事例もお聞きしたいです。</p> <p>◎ 性の問題はなかなか取り組みができなかったのですが、とても必要な事だと実感しました。わかっているけどできないのが現状です。父親に言うだけで、父親は「そのうちわかるもんだ！」と私の話を聞く耳を持たなかったのですが、夫婦で話しあって、しっかり取り組もうと思いました。子供は男の子です。</p> <p>◎ 私は子供にダメや禁止ばかり言ってきました。なぜそういうことをするのか、理由がある。その理由を分かってあげることが大切だと思いました。性のことに関しては悪い事ばかり想定してしまっていました。性の成長もプラスにとらえていきたいです。</p> <p>◎ 子どもは女の子です。まだ幼いですが、テレビドラマの恋愛ラブシーン等も見ているので、どのように性の問題に取り組んでいこうかと考えていました。お互いを大事に思う気持ちを育てて、全てを禁止するようなことは、してはいけないのだと勉強になりました。色々心配な事がありますが、デート学習もどこかで取り入れてやってもらえたらありがたいと思いました。今まで煩わしいから恋愛をほしくないと思ってきましたが、恋愛することによって、心も体も磨かれるので、もっと恋愛を勧めようと思いました。</p>
活動テーマ	講演「〈しょうがい〉のある思春期・青年期の子どもたちと〈性〉 —大人になりゆく自分を育む—」			
キーワード	性のトラブル	自己肯定感	共生	
開催日	平成28年10月20日(木)			
場所	桃陵高校医学講義室			
時間	10時00分～12時00分			
参加者	保護者43名 内訳 1学年保護者 9名 大府市内中学校特別支援学級保護者 12名 2学年保護者 8名 3学年保護者14名			
趣旨	保護者として、思春期、青年期の子どもたちの〈性〉について理解を深め、トラブルを未然に防ぐ対策を考える機会とする。			
活動ポイント	講演を聞き、家庭での対応の仕方を知り、子どもたちの自立を支える			
主体委員会名・講師名等	日本福祉大学社会福祉学部 社会福祉学科 教授 木全 和巳 氏			
<p>「講演のポイント」</p> <p>性と生の学びで一番大切なことは、自分のからだところが大切に思えるような自分を育てていくことつまり「大切なわたし」です。「自己肯定」の感覚です。発達に障がいがあっても障害も含めて「大切なわたし」という感覚です。この感覚があって、他者を「大切なあなた」として、はじめて尊重できるようになります。そのために、からだところの科学の知識、かけがえなさとしあわせを求めるための人権という価値、そして、男女が、人と人が、共に生きるという共生の思想、そして、人としてひとり立ちしていく自立と自律に向けての発達のための教育が必要になります。</p> <p>いくつかの具体的な事例を交え生徒の実態に即した講演をいただきました。</p> <p>事例 スマホのサイトでの多額な請求、彼女との交際など。</p> <p>事例 デート学習(映像を通して異性とかかわるロールプレイの学習の様子を考察しました)</p> <p>思春期「恋愛」という特定の異性(同性もある)への性的な興味や関心も芽生えます。独占と排除というエロスの(性愛特有)な人間関係を培うような対人関係への組み替えも 始まります。</p> <p>性別違和感や同性愛などのセクシャル マイノリティへの配慮も必要です</p> <p>このような、主に同性との友人づくりや主に異性とのつきあい方と性的衝動の対応は、発達障がいのある子どもにとっては、苦手な課題になります。</p> <p>本人たちの気持ちを大切にしながら、関わる力をロールプレイなどを通して身に付けていくことや、自分の機能障がいについて知り、受けとめ他者にも知らせていくような取り組みも必要になります。</p>				
				
メール送信先	info@aichikoupren.org			